

令和5年度 第2回 山形市総合学習センター運営協議会

令和6年2月8日(木)

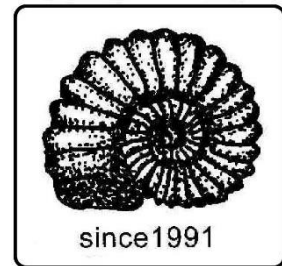
15:30~16:45

会場:多目的研修室

I 出席者

【委員】津留俊介委員長、関口雄一委員、戸田雅大委員、横倉晋也委員、
阿部慶子委員、西村仁美委員、花輪千秋委員、丹羽秀樹委員、
芦野 均委員、渡邊玲子委員 (計10名)

【事務局】馬場総合学習センター所長
花輪総合学習センター指導主事
白田総合学習センター指導主事
元木総合学習センター指導主事
板垣学校教育課主任指導主事 (計5名)



II 傍観者 0名

III 会議

1 開 会

2 あいさつ

(1) 総合学習センター所長(馬場)

(2) 運営協議会長(津留)

3 座長選出(津留委員長)

4 協議

(1) 令和5年度事業報告 …資料をもとに、事務局担当者から報告。

(委員) 情報教育の紙資料のグラフを一つ一つ大きくして見やすくしてほしい。

ラインを子どもが使うことについて、長所も短所もあると感じている。

時刻かまわず通知が来るが、見ないとだめだと思ってしまうことや、ティックトック等には、はっとするような広告が出る。指導はどのようにしているのか。

(事務局) ライン疲れの中学生が増えている。睡眠時間が削られる、返さないわけにはいかないというような意識が働いてしまう状況がある。子どもたちには、自分でしっかり判断するようという話や、ティックトック等で公開するリスクの話もしている。スマホ等の利用制限の話も保護者にしている。有害なものから子どもを守る術についても話し、持たせるには管理も当然必要になってくることを伝えている。危険性とともにより上手に使うためのポイントを保護者向けの話として行っている。

(委員) 情報教育の資料のグラフの見方について。抽出は何名ぐらいしているのか。

継続して回答している子どももいるのか。ランダムというのはどのような

形でしているのか。

(事務局) 各小中校において学年で小学校は20名ずつ、中学校は10名ずつを抽出している。対象の学級等を変えて実施をお願いしているが、学級替えがある学校においては、連続して答えている子どももいるかもしれない

(委員) 特別支援教育相談員活動実績の報告の中で、今年度から相談員が4名に増えたとの報告があったが、就学相談が増えたのは4名にふえたからか。

(事務局) これまでは学校の先生に分担して行っていたことを、増員した職員で行った。

(委員) 相談員の方が増えたことによって、検査台数、検査室に限られることはあるのか。

(事務局) 今年度は、なかった。増員となった2名については、前半は研修期間ということで、検査数が例年とあまり変わらない状況であった。

(委員) 今後増えていく可能性はあるのか。

(事務局) 増えていく可能性がある。

(委員) 教職員の研修に関して、評価はどのようにしているのか。研修を受けた結果をどのように判断しているか。自己評価だけか。

(事務局) 振り返りをして、内容についてもご意見をいただいている。

(委員) 企業だと上司が評価をすることが普通。研修が職場にいかされていたのか、もっと必要なことは何か等、評価することも必要なのではないか。それによって研修内容を変えていく必要はないか。

(委員) 上司も同じ研修を受けるということをしないとそれは難しい。

(委員) この先生はここがよくなったなというような評価があればいいなと思った。

(委員) それをするには、上司も研修内容をきちんと把握している必要がある。システマ的に考えるとそれはかなり大変。

(事務局) まだ移行期間ではあるが、研修の履歴をつける動きが文科省からある。管理職がこの先生がなんの研修を受けているかを把握できるようになる。それを参考にして、面談時にアドバイス等もできるようになる。

(委員) 子どものライン使用のことにに関して、難しい問題である。無料で使用することができるから。グループラインにしても、最後は家庭の問題。保護者向けの説明会を折りにつけてすることが大事。公衆電話ボックスがちまたから消えたから、携帯電話を持たざるを得ない状況にある。最終的には家庭の問題なので、幾度となく使い方を保護者へ伝えていくしかないのだと思う。

(事務局) 中学校の新生生オリエンテーションで話をさせていただいた。どういった方法でブロックすることができるのか等、具体を提示しながら話をした。もっと保護者に伝えることができる機会があればいいと思っている。

(委員) 中学校でも、ライン使用のトラブルは多くある。新生生保護者説明会や、入学してからの指導も行っているが、それでもラインのトラブルもがきている。市教委、警察からもお話をいただいて、繰り返し、三年間指導していくしかないと考えている。

(2) 令和6年度事業計画 …資料をもとに、事務局担当者から説明。

- (委員) 部活動の地域移行で部活に入らない子どもが増えると、スマホを触る時間が増え、トラブルも増えるのではないかと心配している。SNSに触れる時間についての調査を継続してほしい。理科教育センターで行っている科学教室も部活動のような形でできたらいいとも思う。
- (事務局) ご指摘いただいたところも危惧として捉えているので、継続して傾向をみていきたい。
- (委員) 人手不足や働き方改革という問題をどの社会も抱えている。学校でできることと家庭と社会でやっていくことを発信すべき。そうしないと、いつまでも働き方改革が進まない。積極的に発信をしてほしい。
- (委員) 教育委員会からの発信は難しい。各学校で行うしかないと考えている。学校からの発信の一つとして、学校のホームページがあると思うが、発信が少ない学校もある。校長の巻頭言等、ホームページをしっかりとつくって発信できるように、教育委員会の指導をお願いしたい。
- (委員) 教職員の研修の数が多く感じる。減らしたほうがいいのか。忙しいのではないかな。
- (事務局) 吟味します。
- (委員) 学習センターの役割が、現代の学校の問題に直結している。それだけに学習センターの役割が重要になってきている。風の通級人数は減っているけれども、不登校の人数は増えている。山形市では、フリースクールに通っている児童生徒について、校長が認めれば出席扱いになる。しかし、フリースクールに通うにしても補助金の制度がまだまだである。家庭と連携していくためにも、福祉の方面からの協力も高めていかなければいけないと考えている。上山市は県と連携して、文部科学大臣指定の「学びの多様化学校」を立ち上げるようである。山形市から越境できないのかという保護者の声も聞こえてくる。また、保護者の心配事としては、不登校における学力の低下がある。低学年の内は社会性を学ぶ場として学校を考えているが、年齢が上がるにつれて学力をどう補っていくのが保護者の関心が高まっていく。学習保障への対応をどのように行っていくか、風に通っている子どもたちの学力を伸ばしていくことができるような対応を考えていけたらと思う。
- (事務局) 様々な学年のお子さんが集まってくる中で、学習は自学自習がベースで、個別支援で行うしかないという現状である。こうした現状もあって、自学自習ができる小学4年からの通級にもなっている。もっと人手があれば可能になるかもしれないが、いただいたご意見をもとに検討事項として進めていきたい。
- (委員) なぜ上山が「学びの多様化学校」を受けることになったのか。ニーズとしては山形市の方があったのではないかな。
- (事務局) 詳しいところはわからない。
- (委員) 人口の多いところがやるべきではなかったのか。
- (事務局) 詳しいところはわかりません。

(委員) 風において、学力を上げるには、もっと人手があって個別指導できる環境をつくといいのではないかと思います。ボランティアとして退職教員にお願いすることはできないか。やりたいと思っている人はたくさんいるのではないかと思います。

(事務局) ご意見として生かしていきたい。

4 その他

・来年度の運営委員について

(事務局) 2年の任期になる。役職での委嘱の方は、代わることがある。

・来年度の日程

第1回 令和6年5月29日

第2回 令和7年2月 5日

5 閉会